

学ぶところが輝く学校

茅ヶ崎市立汐見台小学校

学校だより 6月号

令和4年 6月 1日

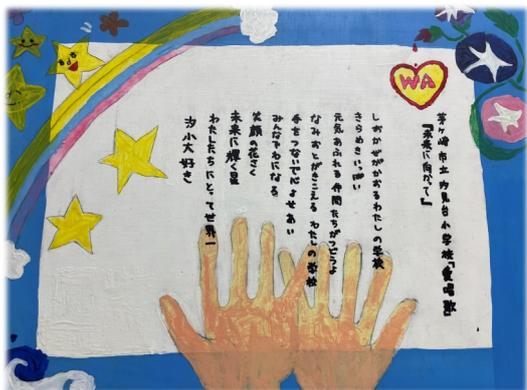
校長 大越 敏孝



卒業生初の教育実習生の言葉から



5月23日(月)に、今年度の学校の教育方針をお伝えする学校説明会を3年ぶりに学校で開催しました。会場の体育館には、本校の卒業生で初めての教育実習生も参加しました。私の話の中で、養護教諭を目指して頑張る彼女の実習日誌に、「1年1組の音楽の授業を参観しました。校歌を覚えようということで、私も子どもたちと一緒に校歌を歌いました。8年ぶりに歌った瞬間は涙が出るほど感動しました。」と書かれていたことを紹介しました。卒業生が教育の仕事に携わろうとしていることを、本当にうれしく思います。



汐見台小学校には、校歌のほかに「愛唱歌」があります。創立当時、子どもたちの言葉を集めて作った愛唱歌です。最後のフレーズに「わたしたちにとって世界一 汐小大好き」という歌詞があります。子どもたちから「学校が楽しい」「汐小大好き」という言葉がでてくるような、卒業しても子どもたちの心に残る学校となるように、教職員が力を合わせなければならないと改めて感じたことをお話しさせていただきました。

コロナの感染状況も落ち着きを見せ始め、前の週より新規感染者数を下回る日が多くなってきました。各学年とも感染防止に努めながら校外学習や外部講師による授業などがたくさん行われています。学習活動に取り組む子どもたちの表情も豊かになり、活気を感じます。「ひと、もの、こと」との豊富なかわり合いの場面を設定することの大切さを感じるとともに、さらに活動の幅を広げていきたいと思っています。

*学校説明会でお話させていただいた今年度の学校経営計画については、次ページ以降に掲載させていただきました。ご覧ください。

学校生活における児童のマスクの着用について

新型コロナウイルス感染防止のため、学校においては「3つの密」を避けること、「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」などを基本的な感染症対策として指導しています。

先日5月23日に政府における「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対象方針」が変更されました。現在の「学校衛生管理マニュアル」を変更する趣旨のものではありませんが、文科省からは「学校生活における児童生徒等のマスクの着用について」が示されました。マスクについては、学校教育活動においては「身体的距離が十分とれないときはマスクを着用するべき」としつつ、マスクを外す際の留意事項についてふれられています。

気温の高まりに合わせて、マスクの着用による熱中症の危険性も高まっています。児童の安全を最優先に、全教職員が共通理解の下、次のとおり臨機応変に対応していきます。

【マスクを外してもよい場面】

・体育の学習中

(基本的にはマスクを外す。熱中症等への対応を優先できるよう、授業の実施方法を工夫します。)

・体育の学習以外で体を動かす場合(休み時間など)

・人との距離が十分に確保できる場合(登下校中など)

・その他、健康状態等によりマスクを外すことが望ましい場合

※WBGT値(暑さ指数)を測定・把握し校内に周知します。

外したマスクは、「マスク入れ」にしまいましょう。

*「マスク入れ」「ハンカチ」「ティッシュ」は、毎日忘れずに持ってきてきましょう。

*暑いので「替えのマスク」もランドセルやかばんの中に入れておきましょう。



☆マスクを外す場合には、

「人との距離を十分にとる(2m以上)」

「会話をひかえる(会話をするときにはマスクをつける)」

*人との距離が十分にとれているか判断が難しい場面もあります。学校生活においては、

マスクを外してもよい場面でも、「会話をするときにはマスクをつける」ことを基本とします。

感染防止に努めた上で、マスクの着脱だけでなく、体を動かす活動でのこまめな水分補給・休息等、児童の安全を最優先に、きめ細かく状況に応じて指導してまいります。ご理解、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



I 教育の目標

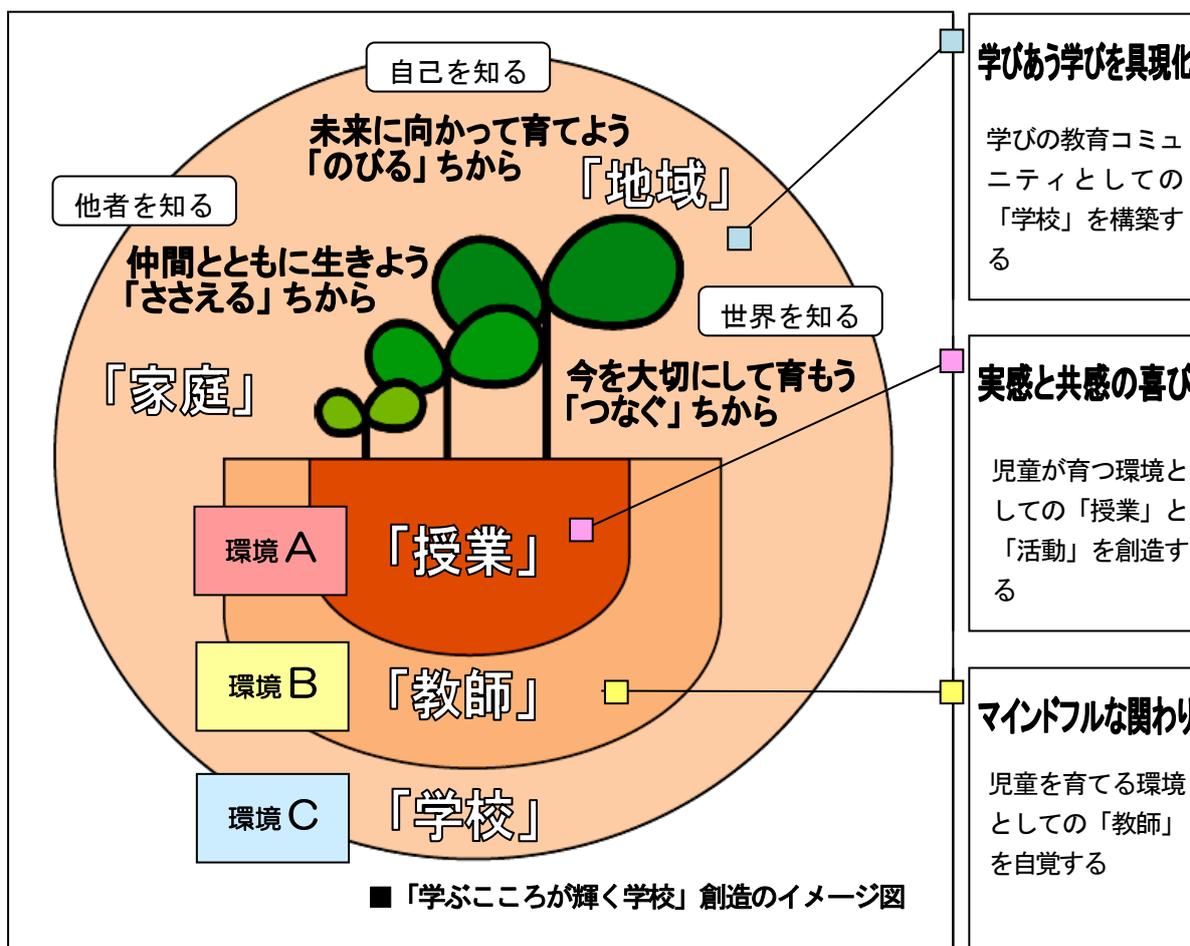
『学ぶところが輝く学校』

- ・未来に向かって伸びようとする子どもたちを育てていくためには、家庭・地域・学校のそれぞれの大人が、子どもの成長のために必要な役割と責任をしっかりと果たしていくことが必要です。
- ・汐見台小学校は、児童の成長の可能性を最大限に尊重し、一人ひとりの児童が「学び続ける意欲」と「確かな学力」を身につけることができるよう教育活動を展開していきます。
- ・学校が子どもたちの成長の場、学び場となるよう、教職員をはじめ、保護者や地域の方々が、「教育」というテーマに基づき、共に学びあう関係を生みだしていきます。

II 学校教育目標

～のびす・つなぐ・ささえあう～

- 未来に向かってそだてよう「のびる ちから」 自己を知る
- 今を大切にしていはぐくもう「つなぐ ちから」 世界を知る
- 仲間とともに生きよう 「ささええる ちから」 他者を知る



Ⅲ 学校づくりの内容（＊今年度の重点）

1 「実感」と「共感」の喜びが輝く授業と活動を創る 【環境A】

- 本校の特色ある教育課程を創造する
 - 自分の考えをもち表現できる子どもの育成
 - ・算数科を中心とした授業づくりの推進 ＊
 - 地域にあられる教材を活かした生活科・総合的な学習の時間の充実 ＊
 - 児童の自尊感情を高める「特別活動」
 - ・異年齢集団の活動「なかよしのわ」の推進 ＊
 - 「健康教育」を枠組みとした食育・保健・運動の横断的な実践
 - ・養護教諭、栄養士による授業の展開
 - 「読書が大好きな児童」をめざす読書活動の展開
- 教師の「ねがいと思い」に根ざした授業をデザインする
 - 「教材研究」の継続
 - 「聴く」ことを視点とした学びあいの活性化 ＊
 - 子どもの言葉を大切にした授業づくり ＊
- 「学級」「学校」の所属意識が高まる教育活動を展開する
 - 「学級生活」は、学校生活のベースの居場所
 - 「学校生活の約束」の明確化
 - 児童の思いや考えを主体とした教育活動の展開



2 マインドフルな関わりをひろげる教職員集団を構築する 【環境B】

- 教職員の同僚性としての対話を活性化する
 - 「その場省察」と「リフレクション」の機能を生かした校内研究
 - 経験者研修における授業公開
 - 自主的な授業公開・参観 ＊
 - 6校連携（松浪中学校・緑が浜小学校・松浪小学校・浜須賀中学校・浜須賀小学校）
- 児童の学ぶ意欲を啓発する学習評価を展開する
 - 「ふりかえり」という自己評価を大切にする
 - 保護者の児童への具体的な関わりをつくる評価活動
 - 児童の歩み、教師の励まし、次の成長への手立てを伝える「のびゆく姿」
 - 評価規準・評価基準の作成
- 個々の児童理解と支援の充実を図る
 - 支援を必要とする児童への理解
 - 児童支援会議の定例化と充実
 - 子ども・保護者の困り感に寄り添うためのケース会議の充実
 - T.T.指導・少人数指導・個別指導の充実
 - 学習面や生活面における児童の困り感を低減し、安心して学べる教育環境づくり



3 教師・保護者・地域の方々と学びあう学びを広げる 【環境C】

- 地域とともにある学校づくり ～学校運営協議会の設置（コミュニティ・スクール）～ ＊
 - 保護者・地域の方々との協働による教育活動の展開
 - 子どもたちの成長を家庭や地域とともに支え、学校の教育活動の充実を図る
 - 学校支援・地域連携の充実による学校教育活動の充実
 - 地域の方々と連携した教育活動の展開

- 保護者の教育活動への参加と参画を広げる
 - 保護者の学習参加
 - PTA 活動との連携

- 児童の生活を取り巻く環境の問題に対応する
 - 情報モラル教育の推進 ＊
 - 海での活動と安全（水難事故の防止）
 - いじめの未然防止・早期発見・早期対応
 - 「あいさつ見守り隊」の方々との交流

- 保幼小中の教育連携を推進する



☆新型コロナウイルス感染症対策を行い、安全・安心な教育活動を継続します。

IV 令和4年度の学校づくりの重点

- 「新しい生活様式」を定着させ、感染防止対策を行いながら学習内容・活動内容を工夫して教育活動をすすめ、児童の学びを保障します。

- 「学校運営協議会」を設置し、「地域とともにある学校」づくりをスタートします。

- 「自分の考えをもち表現できる子どもの育成」のため校内研究の充実を図ります。
 - ・算数科を中心とした授業づくりの研究推進
 - ・「聴く」「話す」を大切にされた教育活動

- 誰もが安心して学べる教育環境づくりをすすめ、障がいの有る無しにかかわらず、さまざまな課題を抱えている子どもたち一人ひとりのニーズに対応する支援教育を充実します。